



令和7年度 小学部 遊びの指導の実践事例

題材名：『水遊び』で、水をすくってこぼす、【樋】に水を流す、的に【水鉄砲】や【水風船】をとばすなどして、自ら遊んだり、続けて遊んだりしよう

授業者：赤嶺 一字



教材について

本グループは、教師が誘ったり、友だちの遊ぶ様子を見たりすると乗り物や絵の具などの素材を手にとって遊び始める児童や、自分から遊び始めるが、すぐに遊びをやめたり、一定時間遊び続けたりする児童で構成されている。遊びの様子を見ると、絵の具を手につけて素材の感触を楽しむ、絵の具で作った色水をすくってこぼす、霧吹きを使って紙に吹きかけるなどして行為やその結果を楽しむ、絵の具を刷毛につけてイラストに色を塗るなどして目的をもって遊ぶなど、児童によって遊び方は様々である。

本実践の水遊びは、暑い時期に冷たい感触が楽しめ、興味・関心をもてると考えた。また、水に触れて水そのものの感触を楽しむ遊びだけでなく、水をすくってこぼす、とばすなどの行為やその結果を楽しむ遊び、的に向けて水をとばす、水が樋などを流れることを利用してものを流すなどの目的をもった遊びなど、本グループの児童それぞれの遊びの段階に応じた活動を仕組めると考え、水遊びを取り上げた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

生活科 小学部1段階 エ 遊び

知・技：(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。
思・判・表：(ア)身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。
学 び：ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。



配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

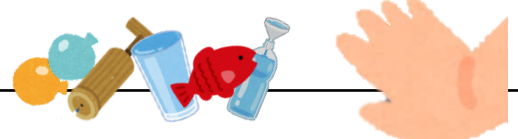
体育科 小学部1段階 D 水遊び

思・判・表：ア 教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しむこと。



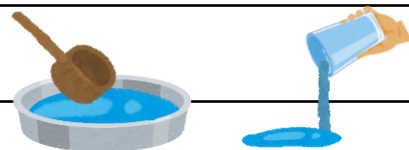
題材目標

知・技	『水遊び』で、水をこぼした結果の面白さがわかり、自ら【樋】に水をこぼす、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水を流すなどして遊ぶ
思・判・表	自ら【水風船】や【水鉄砲】で飛ばした水を的に当てる、【樋】に水をこぼす、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水を流すなどして遊ぶ
学 び	毎回の授業で、自ら【水風船】や【水鉄砲】でとばした水を当てる、【樋】に水をこぼす、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水を流すなどして遊ぶ
配 慮	【水風船】【水鉄砲】【樋】【バケツばっしょん】【鹿威し】などで、自ら水に触れて遊ぶ



授業評価

知・技	コップの水をこぼして【樋】にプラスチックの魚や糸を流す、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水をこぼして水を流す、音を鳴らすなどして、自ら遊ぶようになった。
思・判・表	【水風船】【水鉄砲】を的に当てる、【樋】に水をこぼす、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水を流すなどして、自ら遊ぶようになった。
主 体	題材後半の毎回の授業で、【水風船】や【水鉄砲】でとばした水を当てる、【樋】に水をこぼす、【バケツばっしょん】【鹿威し】に水を流すなどの遊びを自ら行う姿が見られた。
配 慮	【水風船】【水鉄砲】【樋】【バケツばっしょん】【鹿威し】などで、自ら水に触れて遊ぶ姿が見られた。



ポイント



自分から遊ぶようになるための、**指導の計画**と**働きかけ**の工夫



指導の計画

【バケツばっしょん】【鹿威し】に			【樋】に		
コップの水を上から下へこぼすように					
教師と一緒にバケツのひもを引っ張って	に水を入れて	自ら	教師と一緒に水を流して	プラスチックの魚を置いて	自ら
水をこぼすことで					
水が一度に大量に流れたり、音が鳴ったりする			プラスチックの魚や糸が流れる		
面白さ					
に目を向ける	がわかる		に目を向ける	がわかる	

【水風船】【水鉄砲】などを的に当てる、【バケツばっしょん】【鹿威し】【樋】などに水をこぼしたり、流したりするなどして、**自ら**遊ぶ

働きかけ

- プラスチックの魚を樋に置く
①教師が置く
②教師が手渡す
③教師が指さす
④教師が言葉をかける
①→④へ、支援の強度を、徐々に弱める
- トロ船の水をコップですくう
- 樋にコップの水をこぼす
- プラスチックの魚が樋を流れてタライに落ちる



ポイント



水をこぼした結果が、面白い！！と思う**教具**の工夫

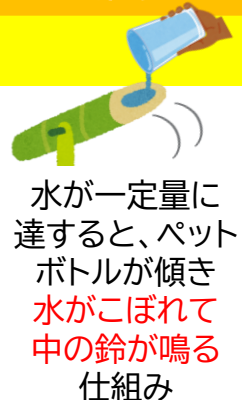


【バケツばっしょん】



バケツに水を溜めて紐を引っ張ると**一度に大量の水**が流れる仕組みと、**一定量に達したら水がこぼれる**仕組み

【鹿威し】



水が一定量に達すると、ペットボトルが傾き**水がこぼれて中の鈴が鳴る**仕組み

【樋】



水を流すことで、プラスチックの魚が**左右に流れ**、その様子を見て楽しむことができる仕組み

考察

《指導の計画に沿った**指導場面**や**指導内容**を**教員同士**で共有することの重要性》

児童14名を教員7名で指導する時に、重点的に指導する場面や指導内容を共有することの重要性を改めて感じた。教科別の指導と違い遊びの指導では、児童がねらいとなる遊びの場所に行ったり、道具を手にとったりするタイミングを見計らって働きかけることが重要である。そして、そのことを教員同士で共有するために**場面設定のイラスト**と、児童と教員の**顔写真カード**を使い、**指導の計画**と照らし合わせて、振り返りや改善をすることを本実践だけではなく、今後の指導でも継続したい。

